

北海道大学雨龍研究林御中、北大森林研究会御中  
木育マイスターの皆様、白樺プロジェクトメンバー各位  
他、参加協力予定の皆様

白樺プロジェクト/第4回森林ツアーとシラカバ樹皮採集ワークショップ計画書

一般社団法人白樺プロジェクト  
代表理事 鳥羽山聡

毎年7月上旬に、シラカバ天然更新試験林の見学を中心とした森林ツアーと、この時期にしか行えないシラカバ樹皮採集のワークショップを行ってきました。シラカバを人の手で「育てる」と高付加価値で「使い続ける」ということを考えるきっかけになるプログラムとして内容を充実させながら続けていきたいと考えています。

今年は、北大総合博物館休憩室の改装のプロジェクトも視野に、シラカバ林の伐採前・伐採（冬山造材）、伐採後の再生林の見学と続いていく森林ツアーの起点にしたいという考えもあります。また、天然更新など森づくりの視点に欠かせない森林の「遷移（せんい）」についても学べるツアーにしていきたいと思えます。

① 概要

主催：一般社団法人白樺プロジェクト（旭川市）、北海道大学雨龍研究林（幌加内町）

協力：北大森林研究会（札幌市）、

日時：2023年7月6日（土曜日）、7日（日曜日）※単日のみの参加も可

※小雨程度であれば決行する予定です。長靴など林内散策用の履物をご用意ください。

場所：北海道大学雨龍研究林（幌加内町）

宿泊場所、発表会：北海道大学雨龍研究林研究棟内（幌加内町母子里）

参加人数：30名から40名ほどを想定

参加費：7,000円（学生5,000円）

※食費3食3,000円程度、宿泊費1,500円程度、保険料1,100円程度、協力費1,400円程度

※基本的に2段ベッドのある大部屋です（男女別）。

個室をご希望される方は、名寄市内のホテルなどを個別に各自でご予約をお願いします。

※食事は3食、名寄市内の仕出し弁当宅配業者をお願いします。ペットボトルのお茶を用意します。

※入浴は、研究棟内の大浴場で男女時間差を設けて入浴（夜中でも入浴可能）。

自由時間に、日向温泉に日帰り入浴可能（片道20分程度、550円）

内容及び日程：

7月6日 12:30 北海道大学雨龍研究林研究棟（幌加内町母子里）に集合、自己紹介、レクチャー等  
（札幌から高速道路利用で約2時間40分・一般道利用で3時間40分、旭川から約1時間40分）

13:00 森林ツアー（原生林、シラカバ天然更新試験林見学）

16:00 自由時間（入浴など）

17:30 夕食、発表会（2時間程度）、交流会

※交流会のお飲み物（アルコールを含む）、おつまみは、参加者各自でご用意ください。

7月7日 7:00 朝食

8:00 森林ツアー（ミズナラ天然更新地、シラカバ伐採予定地見学）、伐倒、樹皮採集

12:00 昼食（ここでいったん解散）

13:30 （※希望者のみ）展望台とアカエゾマツ原生林見学

15:00 解散（※この後、北大森林研究会のメンバーは伐倒したシラカバ丸太を回収）

②森林ツアー、樹皮採集ワークショップの内容

「人は森林を利用していなくては豊かな生活ができない」という前提に立って、「ではいったい、ここ北海道で暮らす私たちはどのように森と関わっていくのがよいのか」を一緒に考えるのが目的です。

その一つに、北海道ではよく見かけるけれどあまり使われていないシラカバが、実は広葉樹の中でも数少ない、人の手で育てやすく生態系に与える影響も少ない樹木であることを知ってもらう機会になればと思います。そのためには、北海道の森の特徴である「針広混交林」や、「針葉樹」と「広葉樹」の違い、「植林」と「天然更新」の違い、木の成長だけではなく森の成長を知るうえで大事な「遷移（せんい）」などについて、森を歩きながら見て感じて学べるツアーにしたいと思えます。

また、来冬に伐採する予定の6ヘクタールほどのシラカバ林を見学してもらい、なぜこの森を伐採し、ど

のようにまた森をつくっていくのか、そして、人の手で育てていく森の未来の姿に思いをめぐらせて頂きたいと思います。来冬には冬山造林の見学ツアー、来夏の同時期には再生林作業の見学ツアーを行い、さらにその後も毎年森林ツアーを実施していく予定で、気の長い話ですがシラカバ天然更新による森づくりの研究を見続けていくことができます。

合わせて、今回は2本のシラカバ材を伐倒し、樹皮採集体験を行いたいと考えています。伐倒したシラカバ材は、北大森林研究会のシラカバ鉛筆プロジェクトで利用されるほか、枝なども含めてクラフト製品にも利用される予定です。

### ③募集人数、参加予定者

研究棟の宿泊人数、バスの乗車人数を考え、30人から40人程度を予定しています。

毎年参加協力して頂いている北大森林研究会のメンバー、木育マイスターや森林関係者のほか、白樺プロジェクト関係者、研究林スタッフを加えて20人～25人程度と考えています。一般の参加者は10人～15人くらいを募集したいと考えています。

一般の参加者は、森に関心があればどなたでも参加してほしいと思います。親子でも（子供は小学校高学年以上が望ましい）良いかと思えます。ただ、地理的な遠さや2日にわたる日程ということでハードルの高さがあり、結果的にはかなり意欲がないと難しいかもしれませんが、森林に詳しくない人でも知りたいという思いを強く思っている人に来てもらえればと思います。

### ④準備するもの(服装、持ち物)

(個人)森林での作業に適した服装(肌を露出しない服装)、長靴またはトレッキングシューズ(林内はぬかるみもありますので汚れます。お帰りの際のことと考えてビニール袋も合わせて林内散策用の履物をご用意ください)、手袋、帽子、着替え、タオル、洗面道具、その他宿泊に必要なもの、雨具(合羽など)、飲み物、保険証、

※樹皮採集作業時、森林ツアー時にはヘルメットを着用してもらいます。ご用意できる方はご持参ください。お持ちでない方には、貸し出します。

※夏でもかなり冷涼なこともあります。暖かい服装もご持参ください。

※食事は用意しますが、見学時に水分補給できるように飲み物を各自持参してください。マイボトルなどを用意して頂ければ、研究棟のお茶のティーバッグやお湯は利用できます。移動中におやつなどを食べて頂いても構いませんが、林内に食べこぼしなどを落とさないようにお願いします。

※ナイフ、カッター(樹皮採集用)、剪定ばさみ等をお持ちの方はご持参ください(2日目に使います)。

(主催者用意)ヘルメット、ナイフ・カッター、剪定ばさみ、手鋸、運搬具、スクレーパー、ブルーシート、虫よけスプレー、消毒液、救急箱その他安全対策として、鈴、クマ撃退スプレー、蜂に刺された時の対処薬・器具(エビペン、ポイズンリムーバーなど)

### ⑤ 宿泊、食事について

宿泊は雨龍研究林研究棟となり、大部屋で2段ベッドなどを利用してもらいます。寝具一式はあります。大浴場には、バスタオル、石鹸、シャンプー、ドライヤーなどはあります。(日向温泉入浴の方はバスタオルなど各自でご用意ください)。ハンドタオル、夜間着、洗面用具は各自でご用意をお願いします。

食事は、1日目の夕食と、2日目の朝食、昼食の3食を用意します。お茶などの500mlペットボトルを各回ご用意します。懇親会の飲み物、おつまみは各自持参してください。

自動販売機はございません(付近に無人の自動販売機はあります)。

[雨龍研究林 母子里宿泊施設 | FSC - 海から山まで網羅する16研究施設を統合する北海道大学北方生物圏フィールド科学センター \(hokudai.ac.jp\)](http://www.hokudai.ac.jp/~fsc/)

(※宿泊料については、シーツ代、雑費が別途必要で今回の参加費に含まれています。食事代については休日のためお弁当を独自に発注しているため、ホームページの食事代とは異なります)

### ⑥通信環境と、1日目夜の発表会について

携帯電話がつながるのは研究棟付近だけとなります。林内ではつながりませんのでご注意ください。

研究棟ではWi-Fiを利用できます。

毎年、1日に目の夜に各参加者(参加団体)に発表をお願いしています。

発表は5分～10分程度で質疑応答を含めて15分以内を想定しています。参加するだけでなく発表も行って頂き、森林や林業や木に関わることを理解をお互いに深めて頂く良い機会になります。一般の方でも、何か発表したいという方がいればぜひお願いします。ただ例年好評で発表会の時間が長引く傾向にあるので、時間の関係と内容によっては、組み込むことができないことがありますのでご了承ください。モニターを利用できるので、できれば各自パソコンをご用意ください(場合によってはつながらないことがありますので

念のためUSBなどにデータを入れて持ってきてください)。パンフレット等もあれば配布することができます。

今年から一般の参加者も参加しますので、より分かりやすい内容をお願いできればと思います。

昨年話題となった「ササ枯れ」なども関係者がいれば話題提供をお願いします。

#### ⑦安全対策について

<ヒグマ対策>まずは偶発的に遭遇しない。人の存在を知らせる。写真撮影などで単独行動をしない。万が一遭遇した時のためにクマ撃退スプレーを用意しておきます。

<スズメバチ対策>マダニ対策と合わせて、黒っぽい服は避ける。万が一刺されたときにアナフィラキシー反応が危惧されますが、備えとして研究林からエピペンを持参してもらいます。ただし、これは個人に処方されているものですので、基本的に他者に打つことはできません。命にかかわる状況で、他に選択肢がない場合に限って使うこととします。その他ポイズンリムーバーなども用意します。

<マダニ対策>首にタオルを巻いたり、裾を閉じたり、服の中への侵入を防ぐようにする。作業終了後はこまめにチェックし、なるべく早めに入浴する。

<事故対策>伐倒時は作業半径立ち入り禁止とします。チェーンソーで玉切りなどを行うときは十分離れた場所に移動する。林内ではヘルメットの着用を義務付けます。ヘルメットは研究林で用意してもらいます。軍手等の着用もお願いします。林内は笹でおおわれていることもあるので、転倒には気を付け、目をついたりしないよう注意してください。

樹皮採集時に刃物を使うので作業者は距離を取って注意しながら使う。切り傷などに備えて救急用品を用意しておく。また、立木から採集する場合は梯子等であまり高い位置に登らない。梯子を支える人に上から刃物などが落下しないように紐をつけておく。

<防寒対策、暑さ対策>雨龍研究林は標高が高いこともあり夏でも冷涼な寄稿です。念のため上着を1枚余分に用意してください。暑い時もありますので、水分補給用に十分な飲み物を持参してください。

※救急処置が必要な場合は、名寄市立総合病院の救急外来を想定しています。

[救急外来受診のご案内 | 名寄市立総合病院 \(navoroch.jp\)](http://navoroch.jp)

事前に電話での問い合わせが必要になります(01654-3-3031、名前、年齢、生年月日、症状を聞かれます、研究棟から車で30分程度)。保険証をご持参下さい。

⑧ 傷害保険については、あいおいニッセイ同和損保にて1日単位の屋外活動用の傷害保険を掛けます。2日間で一人1,000円程度の負担になります。

⑨採集した樹皮の扱いについては、白樺プロジェクトでいったん預かり、白樺プロジェクトの樹皮かご編みワークショップ等での利用を考えています。今回については、北大総合博物館の休憩室改装のプロジェクトでクラウドファンディングのリターンを製作することも検討しています。

#### ⑩雨天時の対応

小雨でも決行しますが、悪天候が予想される場合は中止と致します。